

## 秋の遠足

【神應貴嗣さん3班】

『天気の日には紅葉を観ながら歩くのも、きっと気持ちが良いだろうなあ』と思う雨続きの毎日でしたが、遠足当日は雨の幕が上がり朝から快晴！私は妻と息子くんと参加しました。



集合場所の阪急電車の梅田駅2階に少し早めに着くと、もう皆さんの楽しげな輪が広がり始めて遠くからでもワクワクする気持ちが膨らんでいるのがわかりました。スケジュール確認をする頼りになるボランティアの方々を中心に、久しぶりの再会を喜ぶ学習者の皆さん、そして、「はじめまして！」どうしの好奇心が集まり…。次第に輪も大きく膨らんだところで『さあ、出発です！！』

## インスタントラーメン発明記念館

電車にしばらく揺られ

池田駅で降りました。駅近くの商店街・住宅地をしばらく歩くと、突然に四角い二階建ての建物『インスタントラーメン発明記念館』が見えてきました。まるでチョコレートケーキの正面に大きな窓ガラスがはめ込まれた様に見える清潔感のある立派な記念館でした。そして入口に向かう前には、日清の創業者・安藤 百福(あんどう ももふく)さんの銅像がお出迎え『遠い所から、よくいらっしやいました。今日も新しい発見をして楽しんでいってください。わはっは～！』と、今にも張りのある声が聞こえてくる姿でした。そして、エントランスホールにあるクリスマスツリーに吊るされた(日清キャラクター)ひよこちゃんの数を数えながら階段で二階会場へ。そこでは、お祭り縁日のように席を埋め尽くす人たちが『マイカップヌードル作り』をして賑わっていました。私たちも受付で新しいカップを受け取り、順番に空いた席についてスタートです。長机に用意してあるカラーペンをいろいろ使って、カップ表面にパッケージデザインしていきます。「なにを描こうかな？考えてくれば良かったなあ…。」そう思いながら、華麗にペンを動かしている学習者さんたちのカップデザインを見回すと、日本を飛び出して美術館を巡っているようでした。



【余白がないくらいカラーペン全部を使って色鮮やかに仕上げられたカップ。(スパイシー味?!)、

【一色で丁寧に描かれたカップ。(あっさり味?!)、

【サンセットビーチに波の様な文字で書かれた文章。(しお風味?!)、

【仲間とサイン交換しあったカップ。(さわやか味?!)、

【たくさんの仲間が手を繋いで笑っている絵。(ほっこりホクホク風味?!)] などなど。

楽しそうにさまざまな文化や気持ちを載せたカップは、観ているだけで心地良い刺激を受けました。そして、私と妻はそれぞれのカップにヒヨコを描き、仕上げは息子くんにペンを握らせてみました。

彼はペン先をつまみかきながらも夢中で線を走らせていました。描かれたカップは【ヒヨコの上を元気な点や曲線が飛び交う】パッケージデザインになりました。(未知の味?!)…なかなか楽しみです。次にパッケージデザインしたカップを持ち、記念館スタッフが乾燥麺や具材・スープをカップに詰めてくれる列に並びました。よく見かける具材やここにしかない具材がライトに照らされショーケースに並べられていて、学習者の皆さんも味を想像しながらスタッフの方に注文してカップに詰めてもらっていました。最後にしっかりと梱包されたカップを受け取り「マイカップ作り」は完了。集合時間までの間、一階のインスタントラーメン歴史展示をみました。

正確に復元された研究小屋には調理器具がキッチンと整理されていて、おいしく食べられるものを世の中へ送り出したいと言う誠実さと情熱が伝わりました。安藤百福氏の「食」から広がる考え方は他の職業にも通じることばかりで、私にも気持ち良く響きました。見習っていききたい事柄が多かったです。

チキンラーメンを始め、創業以来発売されたさまざまなインスタントラーメンパッケージのトンネルが頭の上を覆いズラリと展示していました。皆さんは口々に「なつかしい～よくこのラーメン食べてたあ」とか「こんな味のラーメンあったんやあ～食べてみたかったなあ」と、懐かしさに包まれながらそれぞれパッケージの前でタイムトラベルしていました。日本を訪れてインスタントラーメンを食べた方々には、どんな生活体験の中で食べていたのか尋ねてみたくなりました。「味覚に込められた記憶はさまざま…。」などと想いを巡らせている内におなかも空いてきて、続いて昼食地点でもある『池田城跡公園』へ向かう道中にいました。

## 池田城跡公園

その道中、息子くんの笑い声に

興味を持ってくださった学習者(カナダ出身)の方と自己紹介をして何気ない会話から、「擬音語」で話題に弾みがつきました。

(私)「今日はポカポカして良かったですね!」、(学)「ん…?。ポカ…?」。私も妻も柔らかい言葉を探して(私)「あたたかい。(とということかな?!)」と返すと、(学)「!!。わかりました!」。あとは、落ち葉を踏み「ザクザク」、雨が「ザーザー」、歩いて「てくてく」などなど三人の気持ちは(私・妻・学)「ホクホク」してきました。そして、(学)「日本語を使いこなして職業でフルに活用していきたい!」と言う気持ちまで聞く事ができたところで、ちょうど『池田城跡公園』に到着しました。その頃にはお腹も「ぐうぐう」でした。「ここで昼食にしまーす。それぞれ食



事をしてくださーい。」の声と同時に、芝生に敷物を広げお弁当を食べました。小高い丘にあるこの公園はサッカーコートくらいの広さできざまな木々が植えてあり、**こざっぱり**と整えられていました。そして鯉が泳ぐ池の上には趣のある城が建っていて、登ってみると池田市街を間近に望む事ができました。私が昔、アルバイトで池田市の造園会社へ通っていた時に手掛けた街路樹たちもキレイに剪定されているのが見えて、あの時の仲間たちの熱気が「**今も！お見事！**」と感じて嬉しくなりました。また、敷物の華が咲いた芝生広場に視線を移すと、めずらしい桜が一本**キラキラ**と咲いていました。「十月桜」と言うらしく、桜の一種で年に二回も花を咲かせるのだとか。その桜の木近くのランチ交流会でも仲間たちが楽しそうに賑わっているのが見えました。あまりにも暖かい日差しに思わず眠くなりました。山の紅葉と**スッキリ**した青空の色合いは、ずっと眺めていたくらいに鮮やかで気持ちの良い景色でした。

## 五月山動物園

**たっぷり**と休憩したら、次は『五月山動物園』へみんなで大移動して珍しい動物を見ました。ヤギ、ひつじ、ポニー、アルパカ、エミューなど他にもいろんな動物がいました。無料で間

近にたくさんの動物を見ることができこの動物園は、もし私が近所に住んでいたら家族と頻りに来たくなるほどです。やはり今日も小さな子供連れの家族も多く、元気すぎる



声に動物たちの方が驚いて目を真ん丸にしていました。ポニーの鼻を撫でる仲間たちの横で息子くんも**おっかなびっくり**手を伸ばすと、不意にポニーが歯を「**ポクンッ**」と鳴らし息子くんは慌てて身を縮め目をそらしました。仲間たちも心配そうに微笑む中、ポニーの目は「もう少し大きくなったら、またおいで！」と言っている様に見えました。(よーし！また今度成長した姿を見てもらおう！)。それから、以前より興味のあるアルパカを「思っていたよりも前歯が長く伸びているな」と思う存分に見つめたあと動物園を抜けました。そして、仲間が集まり「一度ここで解散します。このあと希望する人で展望台までハイキングコースを登ります。」号令がかかった後、頂上に向け出発しました。

息子くんを抱っこして登る妻のペースに合わせて、会話ができるくらいゆっくり登っていました。が、進むうちにコースの坂道が急になり息が上がって会話も途切れ途切れになりました。それから「頂上は、まだああ？」と気分が幾度と重なりそうな時、頭上から明るく重なり合う声が聞こえてきて視界も明るくなってきました。太陽をたくさん浴びた鳥居をくぐって、展望台に到着です。ひと足先に到着していた仲間たちは思い思い過ごしていました。

到着した達成感に浸りながらお茶を一気に飲み干したり、和気あいあいと一列に腰掛け遠くの滑走路（伊丹空港？）から飛び立つ飛行機を指差して山の上を小さくなるまで見つめたり、眼下に広がる住宅群の真中を横切る猪名川（いながわ）がガスで霞む大阪のビル群へ細く延びていくのを目で追ったり、鮮やかな黄緑に塗られた工場の外壁に大きく「壘」と書かれた文字へ息を止めカメラでズームしたり…。(画面いっぱい撮れた彼は大満足そうでした。)池田市を隅々まで一望できて、遥か向こうの雲の固まりを見つけられるほど絶景の場所でした。そこで記念写真を撮り「下りるのがもったいないなあ。夜の景色も見てみたいなあ」と、つぶやく仲間たちもいましたが、名残惜しい気持ちを展望台に置いてみんなで山道を下っていきました。夜景もきっと綺麗でしょうね。出発した場所まで下

りて無事に全員そろったのを確認して遠足は修了解散しました。

私たちはもう少しだけ広場で息子くんと遊ぼうと残りました。しばらくすると、**ポツポツ**と小雨の幕が下りてきたので私たちも家路につきました。一日がアツという間に過ぎてしまう程楽しい遠足で、息子くんにとっても五感を刺激する大冒険になりました。

晴れ晴れ遠足を準備して下さった係のみなさんお疲れさまでした。遠足の間は雨を降らせない?!皆さんの情熱は出来過ぎでスゴイと思いました。ありがとうございました。これからも、

**たくさんの「ホクホク」な気持ちが増えます様に**

## 市岡日本語教室のみなさん、こんにちは

私は、市岡日本語教室でボランティアをしていましたが、今は、中国の大連海洋大学で日本語教師をしています。まだ、3ヶ月しか経っていませんが、とても充実した、そして楽しい日々を送っています。日本にいる時はテレビや新聞を通して中国の悪い印象を与えるニュースに触れることがありましたが、実際に中国に来てみると、まるで違いました。学生や先生たちはむろんですが、大連の町の人々は日本人である私にとっても親切に接してくれます。果物屋さんや雑貨屋さんともすっかり顔見知りになりました。

町を歩くと道を聞かれることがあります。「ティンブトン」(分からない)と言うと、その時初めて私が外国人であることが分かるようです。外国人だと分かると、まず「韓国人か?」と聞かれることが多いです。大連はひょっとしたら韓国人の方が日本人より多いのかもしれない。また、大連からバスで4時間行くと朝鮮民主主義人民共和国との国境の町丹東に着きます。大連は朝鮮民族も多いのかもしれない。中国は56の民族が暮らしていますが、町を歩くと、「あれ?今の人、日本のXさんにそっくり」と思うことがよくあります。中国という国家、朝鮮半島の2つの国家、そして日本、私たちは国家で隔てられているけれど、ルーツをたどって行けば、同じ東アジア人ではないかとさえ思えて来ます。

しかし、その半面、大連では日頃あまり考えることのない近代の歴史を思い出すことも多いです。たとえば、同じ大学の中国人の先生のふるさとは、日清戦争の折に日本が初めて上陸した町だそうです。本屋に行けば、そこのご主人の話によると、自分の親戚は、日本が旧満州国で敗戦を迎えた後、残留孤児として育ち、今は日本に帰国したとのこと。若い学生たちは、そんな歴史にはあまりこだわっていないようですが、改めて日本人として忘れるわけにはいかないと感じています。

歴史を振り返り、そして若い学生たちと過ごすことによって未来を考えることができる、中国に来て本当に良かったです。中国のいい所や悪い所、日本のいい所や悪い所を学生たちと本音で語り合う関係を作って行きたいと思っています。そして、みなさんにも、中国で日本語を学ぶ学生たちの等身大の素敵な姿をお伝えできればと思います。(つづきはホームページをご覧ください。) **志水博子さん**

<http://ichioka-nihongo.org/archives/category/c-dairen>

## 新学期スタート

毎週金曜日のよる7時から8時30分に港区民センターの2階で行っています。ホームページで日程を確認してください。

